

2021年度 通常枠 第2回（事業実施期間最長3年）資金分配団体公募のお知らせ

◆助成額 第2回 約**17.7億円**（21年度総額36億円） ※3か年総額
 ※資金分配団体および1実行団体あたりの助成額は、選定申請団体が申請する事業計画・資金計画等の内容等を総合的に勘案し決定します。

◆助成期間（実行団体の事業実施期間）は**最長3年**です

◆資金分配団体公募期間

- ・公募要領公開 **10月25日（月）**
- ・申請受付期間 **10月25日（月）～11月30日17時**

◆**公募説明会をオンラインで開催します！**

※JANPIAのHP上で日程はお知らせします（全2回開催予定）

- ①**11月2日（火）10時～11時45分**
- ②**11月5日（金）15時～16時45分** ※①と②は同じ内容です。
 参加お申し込みはこちらから↓

<https://forms.office.com/r/U49dLg7Xnd>

・今回公募のポイントを解説
 既存の資金分配団体のみならず、**みなさまからの案件形成やコンソーシアム組成のポイント等**、本事業へのご参画を検討いただくにあたってのヒントなどをお伝えする動画を視聴いただけます

公募要領リンク：https://www.janpia.or.jp/koubo/2021/#koubo_tab2

資金分配団体公募の流れ（予定）

10月25日（月）	公募要領公開
10月25日（月）	申請受付開始
11月30日（火）	申請締め切り
12月～1月	審査期間
1月中旬頃	資金分配団体内定 審査結果通知（全申請団体）
準備が整い次第順次	契約締結・助成金支払い

資金分配団体による実行団体公募の流れ（予定）

2月以降	実行団体の公募・選定
準備が整い次第順次	実行団体への助成金支払い 実行団体による助成事業開始

休眠預金活用事業においてさらに多様な団体の参画や様々な社会課題解決につながるチャレンジングな事業プログラムをご検討されている皆様からご応募を受けていきたいと考えております。

●審査会議では主に以下の眼差しで申請事業を見つめています（審査の目線は公募要領 p13~に記載）

1. その事業を通じて目指す成果に対し、協働・連携を志向した事業形態となっているかどうか？

<協働・連携を志向した事業の例>

➤ **地域での多様なセクター、企業セクターとの連携・座組**など

➤ **コンソーシアム形態での申請（複数の構成団体が資金分配団体として1事業を申請）**

地域の課題を多方面の関係者との連携により課題解決に向けて取り組む、あるいは対象とする社会課題における専門性を有する団体等との連携により包括的支援プログラムの実効性を高めるなど

→ **事例が年々増えています（説明会にて事例紹介の動画をご視聴いただけます）**

2. チャレンジングな取り組みを志向しているか？

➤ **多様な法人形態の団体からの応募**

様々な社会課題への新たな手法などを活用したチャレンジングな申請事業を広く募集します！

申請団体における**役職員の多様性、ジェンダーバランス等**が確保されており、様々な社会の諸課題への深い理解のもとで助成プログラムが組み込まれている団体を優先して選定します。

➤ **休眠預金活用事業終了後の出口戦略**

最長3か年の事業終了後の出口戦略、政策提言・アドボカシーなど…

地域金融機関との連携（事業終了後の資金確保に向けて）、成果連動型の助成スキーム… 様々なアイデア！

3. 休眠預金活用事業を通じた民間公益活動の推進に向けた組織基盤整備にどう取り組むか？

- **事業を通じての自団体の事業に係わる人材の育成（PO人材）**
資金分配団体としての申請事業にコミットする人材の確保ができているか
- **実行団体に向けた、団体の状況に応じた実効性のある支援戦略**
助成金を適切に管理し事業目的に沿って活用いただく、ガバナンス・コンプライアンス体制整備等への支援、事業活動促進に向けた支援メニューを用意し提供していける体制を取ることが可能か

4. 休眠預金活用事業における資金分配団体としての経験を有する団体に向けて～

- **あらたな事業への対応に要するリソースを確保できているか**
様々な事業を展開されている中で休眠預金活用事業をすでに実施いただいている場合、さらに新たな事業を申請いただいた場合に、新たな事業を通じて求めていく成果につなげるために必要な人員の確保など事業実施体制が確保されているかどうかはとても重要な要素だと考えています。